

病院広報誌

わ げ ん あ い ご

和顔愛語

医療法人 真生会
真生会富山病院
SHINSEIKAI TOYAMA HOSPITAL

2019
vol,27

- 💡 **中国訪問 2018** 何氏眼科医院と調印、^{かうが}黄河医院、^{ていだい}鄭大中医医院を訪問
- 💡 **JMIP** (外国人患者受入れ医療機関認証制度) **合格** 富山県で初の認証病院に
- 💡 「認知症？」と思ったら 早期発見チェックリスト



中国・鄭大中医医院的スタッフの皆さんと記念撮影



富山ファン倶楽部総会で調印式と JMIP 合格を報告



調印式に列席される富山県議会議員の方々



中国のマスコミから取材を受ける真鍋院長



瀋陽市内の何氏眼科を見学



ナースステーション



検査の案内板



総合受付前。当院でいうとフロアマネジャーでしょうか。

中国の病院との交流が正式に始まったのは平成26年。大連医科大学（遼寧省・大連市）との医療技術交流をスタートさせ、翌平成27年には瀋陽市第四人民医院（遼寧省・瀋陽市、以下、第四人民医院）と友好協定を結びました。館奈保子アイセンター長が中国の医師免許を取得し、中国国内で手術や診療を開始したのがこの頃です。中国からも医師、看護師が来院し、平成27年から29年までに第四人民医院から3名の眼科医師が当院で研修を終えています。医療技術はもちろん、患者に接する際のあるべき姿勢を学ばれました。そして現在は、何氏眼科医院の張紅麗医師が1年間の研修を当院で受けておられます。昨年11月からはインターネット上で中国人患者の診療についてのカンファレンスを開始しました。

中国から医師を迎えて

周年を迎えます。これまでの経済、観光、文化に加えて、医療を通じた人的・技術的な交流も発展・促進されるよう、当院は取り組んでまいります。

何氏眼科医院 & 真生会富山病院 友好合作医院签约仪式

2018.8.7 中国・沈阳



中国訪問 2018

りょうねい しんよう かし 遼寧省・瀋陽市で何氏眼科医院と調印式

8月7日(火)、何氏眼科医院と真生会富山病院は、交流をさらに推進する協定書を交わしました。

2018年8月、真鍋恭弘院長、館奈保子アイセンター長ほか3名が中国を訪れました。まず、遼寧省・瀋陽市にある「何氏医学院」で何氏眼科医院（中国では病院のことを「医院」と言います）と調印式を行いました。何氏眼科医院は眼科診療のほか、最先端医療や教育、ボランティア活動にも力を入れている病院です。「何氏医学院」は教育を担う施設であり、何氏眼科医院の理事長である何偉医師（眼科医・上の写真左）が院長を務めておられます。

富山県と遼寧省は友好関係にあり、今回の調印式があった昨年8月に富山県友好代表団の中国訪問がありました。そこで調印式には富山県議会議員の方々にもご列席いただけることになりました。同日夜、現地で行われた「富山ファン倶楽部総会」という、石井隆一富山県知事同席のイベントにも参加させていただき、何氏眼科医院との調印式と、当院のJMIP（ジエイミップ）認証取得（5ページから特集）を報告しました。

2018年は日中平和友好条約締結40周年の節目であり、今年は富山県と遼寧省の友好県省締結35

国際医療交流を考える 院長 真鍋 恭弘



地球上に住む、どんな人も健康な生活を営む権利を等しく持っており、医療者はそれに応える義務があります。ですから、病気で困っている人があれば、国籍、言語、宗教、文化に関係なく、平等に治療をして差し上げねばなりません。アジアの多くの国では、十分な医療を受けられず、困っている方がたくさんおられます。真生会で直接、治療することや、もっと良い治療ができる病院が国内にあれば、そちらを紹介できるような体制を作りたいと思います。世界の最長寿国の礎を築いた、素晴らしい日本の医療を海外の多くの方に知っていただく活動をして行きたいと考えています。



中央の電光掲示板に当院の来訪を歓迎するメッセージ

鄭大中医医院の見学

こうが 黄河医院・鄭大中医医院 ていだい (河南省・三门峡市) 訪問



治療方針について話し合う館センター長

黄河の中流、三门峡市へ
瀋陽市で調印式を終え、飛行機で約4時間の西安市へ向かいました。西安から高速鉄道で1時間ほどの位置にあるのが三门峡市です。「母なる河」とも言われ、中国で2番目に大きな黄河、黄河の近くにありまます。昨年5月に当院を見学に来られた鄭大中医医院の関係者の方が、当院の自利利他の理念に深い感銘を受けられて「ぜひ中国にきてほしい」と招待されました。

はじめに向かったのは黄河医院。三门峡市で最も歴史のある最大規模の総合病院です。黄河医院



鄭大中医医院の入口には当院との交流の様子を紹介した看板が設置されています

は鄭大中医医院と連携しています。黄河医院で治療に難渋している患者を館センター長が診察し、大変喜ばれました。続いて訪問した鄭大中医医院では、真鍋院長の講演が行われ、若手スタッフも出席していました。

鄭大中医医院では、当院見学後に自利利他の精神や和顔愛語を診療や病院運営に少しずつ取り入れていっているそうです。「今後もまた来てほしい」との要望に応え、昨年11月にも館センター長と通訳スタッフ(宮下麗娜・瀋陽市出身)が再訪しました。



富山県
第一号!

JMIP

(外国人患者受入れ医療機関認証制度)

取得

当院は、平成30年7月11日付けでJMIP(外国人患者受入れ医療機関認証制度)の認証病院となりました。外国人患者さんの受入れに対する第三者評価であるJMIPの認証を受けたことにより、外国人患者さんにも安心と満足の医療をお届けできる体制整備が一層求められます。

当院が位置する射水市は、平成30年1月1日現在、富山県内の市町村別外国人住民数の割合において県内トップの2.39%を占めます(富山県ホームページより)。そのため、JMIP取得以前からこの地域に住む多くの外国人患者さんが受診に訪れていました。

一方、中国との医療交流(2、4ページに特集)開始により、中国から当院の治療を求めて来日する患者さんも年々増えています。

外国人患者さんが不安なく受診されるよう、国際医療支援チームを中心に検討を行っています。次のページで、具体的な取り組みについて、内科の佐々木彰一医師と、二人の医療通訳スタッフに話を聞きました。(次のページに続く)

中国人患者さんの医療ツーリズム

佐々木 彰一 医師 (日本旅行医学会認定医)

佐々木医師は、総合内科医として、また国際医療支援チームのリーダーとして、中国から真生会の医療を求めて来日する中国人患者さんの診療を定期的に行っています。

糖尿病患者さんの現状

中国の糖尿病患者数は1億人とわれ、深刻な問題になっています。糖尿病診療においては、患者さんの状態に応じてさまざまな治療方法の選択が考えられますが、



患者さんの文化や言語に関わらず、適切な医療を提供したいと思っています。中国人患者さんは、主として、日本の医療で提供される、優れた薬を求めて来日されますが、生活指導がより重要だと判断した時は、生活指導に多くの時間を使います。言葉の壁は、医療通訳スタッフの活躍や、タブレットによるオンライン通訳に

外国人診療に思うこと

「インスリンを打っておいください」と言われるだけで、糖尿病の要因となる生活習慣の改善といった指導的な関わりがなされていないようです。糖尿病の合併症の一つである網膜症の検査をまったく受けておられない方も見受けられます。日本に来られるのはある程度、経済的に豊かな方が多いのですが、このような現状に大変驚きました。

よって、何とか乗り越えられているように思います。この経験を活かし、射水市に住んでおられる外国人の方々に提供できる医療も、磨いていきたいと思っています。

医療通訳※2名が活躍

宮下麗娜 (中国語・1級・下の写真左)
夏山ほのか (英語・1級・下の写真右)

※一般社団法人 日本医療通訳協会が行う医療通訳1級の試験に合格したスタッフです。



当院には中国語と英語の2名の医療通訳者が勤務しています。医療通訳の資格取得を目指した経緯と、外国人患者さんと接する中で感じることを聞きました。

中国人患者さん来院状況

【宮下麗娜・中国語】
中国の瀋陽市出身で、今は富山に住んでいます。当初はケアメイト(診療助手)として真生会に就職し、眼科(アイセンター)で勤務していました。その後、中国の病院との医療交流が盛んになり、通訳業務をする機会が増えていきました。現在はPTS推進室に所属し、医師が中国で手術や講演を



中国から来られた患者さんの通訳

行う際のコーディネート業務、中国人医師が当院で研修を受ける際のサポートも行っています。はじめは医療の知識がありませんでしたが、通訳業務が増えるにつれ必要性を感じるようになりました。医療通訳の資格を取ろうと決意し、日本医療通訳協会で勉強しました。

中国から治療を求めて真生会に来られる方は平成28年は13名、平成29年には14名と増加傾向にあります。今年はすでに昨年以上のペースで来られています。

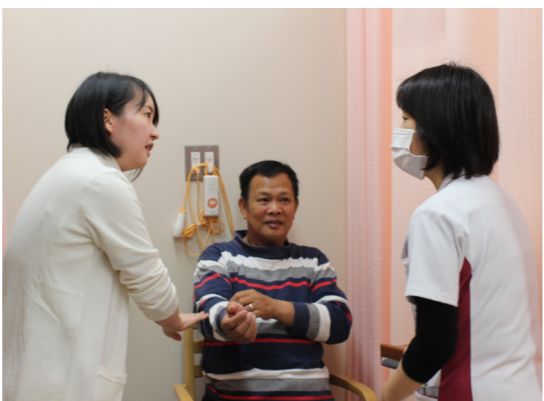
中国語の医療通訳者はまだまだ

【夏山ほのか・英語】

外国の方と話をしたり、交流したりすることが好きで、それを活かした仕事に就くことができないかと考えていました。県外で理学療法士として数年勤務していましたが、海外の方と一緒に働けるキャリアを身につけたいという思いから、仕事を辞めてイギリスへの留学を決意。さまざまな人との出会いがあり、コミュニケーションの重要性を強く知らされました。

グローバルな感覚を

来院される患者さんのサポート、そして当院と中国の医療交流に貢献できるよう、これからも頑張りたいと思います。



フィリピンの患者さんに対応

た。

帰国後、医療に携わりながら身につけた英語を活かすことができたら理想的だと考え、医療通訳の資格取得を目指しました。真生会富山病院には平成30年1月から勤務していますが、当院が医療通訳の試験会場であったことが就職のきっかけでした。

医療通訳者として、まずは患者さんの不安を取り除くことができますよう、努めたいと思います。また患者さんの訴えを正確に医師や看護師に伝え、医療者にも安心・信頼される存在でありたいと思います。

「認知症？」と思ったら 早期発見チェックリスト

「最近同じ話を繰り返す」「些細なことでも怒りっぽくなった」「曜日感覚がなくなった」「ご家族にこのような方がいらつしやいませんか?それは認知症の症状かもしれません。認知症は誰もがかかる可能性のある病気です。しかし、しっかりと治療を行うことで、進行を遅らせたり、症状を改善させることもできる病気です。そのためには病気を早期発見し、適切な治療を始めることが大切です。そこで今回は認知症の早期発見のポイントを紹介いたします。

認知症の初期にみられる症状はもの忘れです。もの忘れといっても、加齢によるもの忘れと認知症のもの忘れは違います。(次のページに続く)



診療案内

診療科

内科、外科、小児科、整形外科、耳鼻咽喉科、皮膚科、形成外科、眼科、麻酔科、心療内科、精神科、神経内科、放射線科、泌尿器科、消化器内科、呼吸器内科、リハビリテーション科、腎臓内科、血液内科、循環器内科、糖尿病・代謝内科、緩和ケア内科、真生会デンタルクリニック（歯科）

受付・診療時間

【午前外来】 平日・土曜日

受付 8:15 ~ 11:30

（診察 8:50 ~ ※整形外科のみ 9:00 ~）

8:00 から整理券を配布します。

正面玄関の解錠時間は 8:00 です。

診療時間以外は、時間外出入り口をご利用ください。

【昼外来】

アイセンター（眼科）のみ

受付 13:30 ~ 16:00（診察 14:00 ~）

※火曜日からのみの受付です。

小児科のみ（※火、木曜日のみです）

火曜日 受付 15:00 ~ 17:00

（診察 15:00 ~）

木曜日 受付 13:30 ~ 17:00

（診察 13:30 ~）

【夕方外来】 月、水、金曜日のみ

受付 16:00 ~ 19:00

（診察 16:30 ~）

※整形外科と眼科のみ 17:00 ~）

【休診日】 土曜日午後、日曜日、祝日

休診時間帯は、当番医師が待機しております。

※ 2019年1月15日からの診療体制です。
診療時間に変更する場合がございます。
事前にお確かめください。

「認知症？」と思ったら 早期発見チェックリスト

（7ページからの続きです）

単なるもの忘れは「昨日の夕食は何を食べたかしら？」と食べたものを忘れるのに対し、認知症の場合は食べたこと自体を忘れてしまい、食べたにもかかわらず「ご飯、まだ？」と言うことがあります。体験の一部を忘れるのではなく、体験したことすべてを忘れてしまいます。

また、本人にはもの忘れの自覚がありません。さらに、家族のこゝとや自宅の場所がわからなくなり、自分の今いる場所や時間が

わからなくなり、昼と夜の区別がつかなくなることもあります。怒りっぽくなったり、頑固になるなど性格の変化もみられます。家族や身近な方が気付くことで、認知症の早期発見、治療につながります。「今までと何か違う異変」を感じたら、放置するのではなく、すぐに医師の診察を受けましょう。かかりつけの医師やお近くの地域包括支援センターなどでご相談ください。



暮らしの中で認知症に早く気付くための チェックリスト（※認知症を診断するものではありません）

- 同じことを何度も言う、問う、する
- いつも探し物をしている
- 財布や通帳などを盗まれたと人を疑う
- 料理、計算、運転などのミスが多くなった
- 約束の日時や場所を間違えるようになった
- 慣れた道でも迷うことがある
- 下着を替えず、身だしなみを構わなくなった
- 話のつじつまが合わない
- 趣味や好きなテレビ番組に興味を示さなくなった

いくつか思い当たることがあれば、まずは相談してみましょう。

敷地内全面禁煙を実施しています。



ご理解とご協力をお願いいたします。

編集後記

外国人労働者受入れ拡大で、これまで以上に多国籍の方が日本を訪れることが予測されます。当院にはこれまでも地元の方の方が数多く受診されていますが、JMIP 認証病院となったことにより、いっそう安全で安心な医療の提供体制が求められます。外国人患者さんにも安心と満足の医療をお届けできるよう、今後も整備を進めてまいります。